

【別紙】

急成長市場・アフリカ「ルワンダ共和国」と手を結び 持続的な成長を目指す「神戸市」の新たな取り組みについて

2019年2月に初めて開催する 『KOBE STARTUP AFRICA』 参考資料



1. ICT先進国・ルワンダ

- ・国名 = ルワンダ共和国。
- ・アフリカ中部の赤道付近に位置。
面積 = 2.63平方キロメートル（四国とほぼ同じ）
人口 = 1191万人 2017年GDP = 91億3669万ドル（前年比7.8%増）
- ・1994年に起きた大虐殺では3ヶ月間で人口の1割にあたる80万人以上が虐殺された歴史を持つ。
- ・近年継続的かつ高水準な経済成長を達成しており「アフリカの奇跡」と呼ばれている。
- ・国を挙げてICT（情報通信産業）立国を目指した取り組みを推進しており
欧米をはじめとする世界の投資家から注目を集めている。

ICT立国を目指す「ルワンダ」主な取り組み

- ・2000年代後半から子ども1人にパソコン1台の配布を開始。
- ・ほぼ全土を網羅する光ファイバー網を整備。
- ・農村部に暮らす人々がパソコンのトレーニングができるICTバスが運行。
- ・携帯電話の普及率は75%以上 携帯電話での電子マネー決済も頻繁に行われている。
- ・2012年に政府が設立したIT技術支援施設「kLab」から、これまで200社ほどの企業が誕生。
- ・「kLab」は3ヶ月に1度、起業家と投資家のマッチングイベントを開催 毎回1,000人以上が参加。

【世界からの評価】

- ・世界銀行が発表する「Doing Business 2018」では、ビジネス環境の良さでアフリカ大陸の首位に評価。
（世界ランクでは第41位と、第34位の日本とさほど変わらない）
- ・世界経済フォーラム（ダボス会議）が2015年に発表したレポートでも「ICTの活用促進に最も成功した政府」として、第2位のUAE、第3位のシンガポールを押さえて世界一に選ばれている。

2. 神戸市とルワンダがこれまで築いてきた関係

・米国の有力なベンチャーキャピタル「500 Startups」との連携を起爆剤にイノベーション都市を目指す神戸市は、ともにICT分野での経済振興を目指しているルワンダと2016年よりビジネス交流を始めた。最後のフロンティアと呼ばれ、急速な経済成長中のルワンダの企業と市内企業との連携が可能となれば、ルワンダ経済の成長を後押しするだけでなく、市内企業にとっても新たな市場進出への足がかりとなると考えている。



キガリ市の共同宣言に署名する久元市長

・きっかけは、ICTでの社会課題解決を掲げている神戸情報大学院大学の存在。2018年10月現在の同校のルワンダ人留学生の数は10名（2013年からの累計は32名）と、持続的な交流が土台となった。



アフリカ神戸リエゾンオフィサーとして
エチオピア人のハサン・ケデュール・エドリスを
採用（2017年4月～）

・2016年5月にはルワンダの首都「キガリ市」との間で、ICT分野を中心にビジネス・学術・行政における連携を深めていく共同宣言に署名。

・現在行われているルワンダ共和国との主な経済交流・連携は以下のとおり。

- ① 勉強会・ビジネスセミナーの開催
- ② 現地ミッションの派遣
(第4回は11/8～11/18に開催)
- ③ ICT教育プログラムの展開
- ④ ICT企業の進出による人材育成支援
- ⑤ ICT企業とアフリカ留学生のマッチング



神戸の企業などが参加する現地ミッションの様子

・市内事業者のルワンダ展開



垂直離発着型ドローンサービスを提供する
SwiftXiがルワンダICT省と覚書を締結



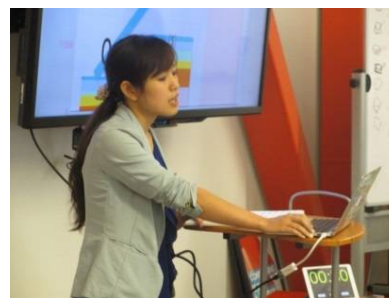
市内IT事業者（神戸デジタルラボ）が
ルワンダの技術専門学校と情報技術支援で提携

3. 2019年2月に初開催！ルワンダへの若手IT人材派遣プログラム「KOBE STARTUP AFRICA」

- ・神戸市は起業家支援の一環で、シリコンバレーへの若手人材派遣・交流を行う「神戸市シリコンバレー交流育成プログラム」を、2015年から計3回開催し、55名が参加。



シリコンバレー交流育成プログラムでこれまで得た成果



プログラム参加後に起業・スタートアップに参加しているメンバーも複数あり。

- ・FITIN (2015年参加)
- ・Ginco 森下 真敬さん (2017年参加、当時豊橋技術科学大学 工学部 情報知能工学専攻 2年)
- ・X-mov Japan 長安 成暉さん (2017年参加、当時関西学院高校3年生) など

⇒ このプログラムを、今年は「ルワンダバージョン」で行います。

3. 2019年2月に初開催！ルワンダへの若手IT人材派遣プログラム「KOBE STARTUP AFRICA」

ビジネス視察と現地企業での インターンシップを合わせたハイブリット型プログラム「KOBE STARTUP AFRICA」

1. 本プログラムを実施する神戸市の狙い、神戸市民のメリット

神戸経済の持続的成長を促すため、神戸市では起業しやすい街をめざして起業家（スタートアップ）のエコシステム構築に向けた取り組みを進めています。また、神戸でチャレンジしたい若者を増やすことを目指しています。

今回は、起業を志す学生や起業家候補が、現地の課題に対してビジネスプランを考えたり、急速に成長する新興市場を肌で体感したり、現地の起業家やベンチャーキャピタリストと交流したりすることで、起業家マインドを身に着けることを目指しています。

2. プログラム参加者の成長が期待できる“4つのポイント”

① アフリカの社会・文化・経済への理解力

アフリカで活動する上で、現地の社会・文化・経済の理解は欠かせません。現地の市場でのミッション、ジェノサイドの歴史、コーヒー農場から輸出までのサプライチェーン、最先端のスタートアップからスモールビジネスの視察まで、幅広い分野や立場の人からの話を聞くことで本やインターネットでは得られない深い理解を目指します。

また、多様なバックグラウンドを持つ他の参加者と一緒に取り組むことで、1つの事象でも10人いれば10人分の視点を得ることができます。毎日、朝礼・夕礼を実施し、参加者の気づき・学びの共有、目標設定・振り返りを行います。

② 課題解決力

Google Venturesが開発したデザイン・スプリントという手法を使い、3～5人のチームで企業の課題解決に取り組みます。まずは現場の状況を理解しマップに落とし込んだ後に、最も重要な課題を見つけます。その課題に対して最適なソリューションを見つけ、プロトタイプを作り検証するまでを最速で行います。

③ リーダーシップ力・チームワーク力

1人でできる仕事は限られています。大きなインパクトを出すにはチームで結果を出すことが必要になります。参加者は複数の難しいミッションをチームで遂行していく中で、リーダーとして、チームの一員として、自らの強みは何なのかを見極め、最適な連携方法を探りながら経験を積むことができます。

④ 「0」から「1」を生み出す力

事前研修で考案したビジネスプランまたは前半のプログラムで発見した課題を解決するような事業を1～5人のチームで作ります。各メンバーのピッチから始まり、チーム作り、ビジネスモデルや事業計画の策定、MVPの作成と検証までを3日間で行います。最後は審査員の前でのプレゼンを行います。